

■■■演壇にて■■■

皆様、こんにちは。三度のメシより佐渡が好き！！政風会代表の室岡啓史でございます。『前向きな島づくり』を念頭に置き、通告に従い、一般質問を致します。

世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るっております。感染によりお亡くなりになられた皆様には、心よりご冥福をお祈り申し上げます。我々一人ひとりにできることは、「新しい生活様式」の実践であると考えます。身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い・うがい・消毒の励行。また、日常生活を営む上での密集・密接・密閉の3密の回避。さらにテレワークやローテーション勤務、時差通勤の実践などです。皆様には、引き続き「新しい生活様式」を意識して行動いただき、健康で文化的な生活を営んでいただきたいと思います。

なお、本日の配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問致します。

◎持続可能な地域づくりの実現に向けて

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】の計画に関する確認と提案

(1)新型コロナウイルス対策を踏まえた「新しい生活様式」について

- ①佐渡市の財政状況と令和2年度の補正予算による反転攻勢
- ②市民および島内事業者（法人・個人）への支援策
- ③小中学校・執行部・議会へのタブレット（電子機器端末）導入

(2)持続可能な地域づくりについて

- ①ソフト・ハード両面の防災減災対策による安全安心な島づくり
- ②オンライン観光や地域の情報化による観光地域づくり
- ③コロナ後の生き方を見直すUターン促進による人口減少対策

(3)佐渡金銀山の世界文化遺産登録について

- ①新潟県内唯一の世界遺産登録という記念日を条例制定へ
- ②さどまる倶楽部会員10万人、関係人口100万人創出への礎として
- ③国連のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みをSaDoGsへ

◎持続可能な地域づくりの実現に向けて

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】の計画に関する確認と提案

(1)新型コロナウイルス対策を踏まえた「新しい生活様式」について

- ①佐渡市の財政状況と令和2年度の補正予算による反転攻勢
- ②市民および島内事業者（法人・個人）への支援策
- ③小中学校・執行部・議会へのタブレット（電子機器端末）導入

新型コロナウイルス対策を踏まえた「新しい生活様式」についてお尋ねします。厚生労働省が発表した「新しい生活様式」ですが、これまでも、感染拡大を食い止めるために徹底した「行動変容」の重要性を訴え、手洗いや身体的距離確保といった基本的な感染対策の実施、「3つの密」を徹底的に避けること、「人との接触を8割減らす10のポイント」などの提案が呼びかけられて参りました。「強制」ではなく「自粛」の要請にも関わらず、日本国内においては一定の終息が見られている状況は素晴らしいことです。しかしながら、引き続き第二波、第三波への備えが必要と考えます。佐渡市においては、観光振興と市民生活の安全安心とを天秤にかけながら施策を打つ必要がありますが、佐渡市の見解をお教えてください。新型コロナウイルス対応に関する予算を含めて、佐渡市の財政状況はどうなっておりますでしょうか。また、令和2年度の補正予算による反転攻勢について、9月、12月、3月ではどのような対応を予定しているのか佐渡市の見解をお教えてください。

次に、市民および法人・個人の島内事業者への支援策はどうなっておりますでしょうか。国の持続化給付金に上乘せする施策を打ったことは評価しますが、法人250万円、個人125万円の助成では、「焼け石に水」状態の事業者も少なくないでしょう。上限を設けた上で、例えば、前年度の納税実績を踏まえて、佐渡市単独でも追加で事業者への助成を行うべきと考えますが、佐渡市の見解をお教えてください。

最後に、小中学校・執行部・議会へのタブレット（電子機器端末）導入についてお尋ねします。今回の補正予算には、佐渡市内の小中学生へタブレット配布の予算が計上されておりますが、詳細についてお教えてください。私は、テレワーク推奨の中、自宅で学習する、仕事をするという傾向は今後さらに強まっていくものと予測しています。2017年に東京の恵比寿にて『タブレットから始まるICT化と「開かれた議会」』というセミナーを受講して参りました。タブレット導入の先進自治体として、神奈川県逗子市議会の議長および議員からご説明をいただき、導入の利点について学んで参りました。議員全員への迅速な情報共有、ペーパーレス化の推進による印刷コスト削減といった利点のみならず、印刷準備や煩雑な作業負担の軽減によって市職員の労務費削減が実現しているということが最大のポイントであることをお教えいただきました。また、災害等有事の際においても迅速な情報共有が可能となります。タブレット導入による議会運営および執行部と議会との情報共有の利便性向上について、どのように考えるか、佐渡市の見解をお聞かせください。

(2)持続可能な地域づくりについて

- ①ソフト・ハード両面の防災減災対策による安全安心な島づくり
- ②オンライン観光や地域の情報化による観光地域づくり
- ③コロナ後の生き方を見直すUターン促進による人口減少対策

持続可能な地域づくりについてお尋ねします。今回の選挙戦を戦う中で、広大で移動距離の長い佐渡において、究極的には遠隔地も含めた持続可能な地域をどうつくっていくかということが大変重要であるということを再認識いたしました。

そこで、ソフト・ハード両面の防災減災対策による安全安心な島づくりをどのように考えているのかお尋ねします。所信表明の中には、「本庁舎については、既存の庁舎を活用しながら、防災拠点となりうる庁舎整備が必要と考えております。」との記載がありますが、どういうことでしょうか。地震・津波・台風・大雨・洪水・大雪といったハードを整備する必要のある災害、そして今回の新型コロナウイルスのような、目には見えないソフト災害においても、リスクを分散する分庁舎の庁舎を現状どおり活用することの必要性を再認識しましたが、佐渡市の見解をお教えてください。

次に、オンライン観光や地域の情報化による観光地域づくりについてお尋ねします。オンライン観光とは、思うように旅行ができない状況であっても、インターネットを活用して観光気分を味わえる体験のことです。猛威をふるう新型コロナウイルスの影響を受け、自由に外出できないストレスから、人間関係や心身のバランスにも悪影響が出ております。さらに、観光施設や商業施設は閉鎖・休館を余儀なくされ、観光客と受け入れる施設の双方が、身動きの取れない状況に直面しております。そのような中、世界各地の観光地ではインターネットを活用した体験の提供や映像配信がスタートしています。また、観光地域づくりを推進するために、集落のガイドブックを作成する、集落ガイドを養成するなど、元気な地域づくり支援事業等の予算を活用し、地域の情報化にも力を入れるべきと考えます。佐渡市と佐渡観光交流機構としては、2030年までに佐渡の関係人口100万人を目指すとの定量的目標を設定。また、佐渡における関係人口の象徴である『さどまる倶楽部』の会員数10万人達成にも向けて、継続した努力が必要と考えますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、コロナ後の生き方を見直すUターン促進による人口減少対策についてお尋ねします。様々な施策の重ね合わせが功を奏し、昨年度には佐渡にUターンされた方が年間200名を超えたと聞きます。高校生等が卒業後に佐渡を離れることで年間約300人のいわゆる社会減が起こっている中、これからも社会減をプラスマイナスゼロへ近づける努力は、人口減少対策となることは明白です。新型コロナウイルスは都市の過密状態への警鐘を鳴らし、結果的には地方創生に追い風となることでしょう。そこで、コロナ後の生き方を見直すテレワークを積極的に取り入れた二地域居住の実践や逆参勤交代制度の実現など、様々な移住定住促進施策が必要と考えますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

(3)佐渡金銀山の世界文化遺産登録について

- ①新潟県内唯一の世界遺産登録という記念日を条例制定へ
- ②さどまる倶楽部会員 10 万人、関係人口 100 万人創出への礎として
- ③国連のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みをSaDoGsへ

最後に佐渡金銀山の世界文化遺産登録についてお尋ねします。来月 7 月に国内推薦獲得、2022 年 6 月に世界文化遺産登録されるというのが最短のスケジュールだと理解しております。

新潟県内唯一の世界遺産登録という記念日を条例制定へという提案です。世界遺産登録に向けた盛り上がり醸成の戦略の一つとして、佐渡市民や観光のお客様による佐渡金銀山の魅力の再発見、知識の共有、郷土愛醸成の一日として、『お客様感謝デー』を決行するべきではないかと考えます。その日だけは、温泉施設や郷土文化施設、金山観光関連施設、市営施設等を佐渡市民の方や佐渡に観光にいらっしゃるお客様に対して無料開放し、地元のガイドの方による集落や文化の魅力の説明を受けて佐渡の奥深さを体感したり、温泉に入り心も体も温まる一日とする。そういった取り組みにより島内外の佐渡ファンを増やしていくという考え方です。毎年一日を佐渡の世界遺産の素晴らしさを共有する記念日とすることで、未来永劫、佐渡の魅力を島内外に伝えていく取り組みは、さどまる倶楽部会員 10 万人、関係人口 100 万人創出への礎としても非常に重要な取り組みになると考えます。このことについて、佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、国連のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みをSaDoGsへについてお尋ねします。平成 30 年 6 月定例会以降何度も取り上げた持続可能な環境の島づくりについてお尋ねします。SDGsとはサステナブル・デベロップメント・ゴールズ（Sustainable Development Goals）の略で、2015年に国連本部で日本を含む 193 の加盟国の合意の下で採択された 2030 年までの「世界を変革するための 17 の目標と 169 のターゲット」のことです。奇しくもサドガシマ(Sa Do Ga shima)の頭文字でもあります。持続可能性を地球規模で考えた時に、非常に重要な目標であり、民間企業や日本青年会議所等の各団体も力をいれてSDGsの実現に取り組もうとしている状況にあります。そこで、所信表明にも記載があるSDGsに関して議会の指摘を踏まえ、2030 年までのあと 10 年間において、今後具体的にはどのように取り組もうとしているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

以上で、一回目の質問を終了します。